

授業科目	理学療法評価診断学 2	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E402 号) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	戸田創		
概要	評価とは、種々の検査・測定を通じ情報収集し、その結果を統合・解釈することで、対象者のもつ障害とその程度を把握する一連の過程をいう。この過程は、理学療法において効果的な治療を実施するうえで極めて重要な位置を占める。本科目では、理学療法評価診断学 1 で学んだ基礎理論や代表的な検査手技を応用し、臨床場面で実施する機会の多い四肢・体幹における種々の関節可動域検査法および徒手筋力検査法についての理論と技術を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節可動域検査法の意義と具体的手法を説明し、各関節の基本的検査手技を実施できる。 2. 徒手筋力検査法の意義と具体的手法を説明し、各関節の基本的検査手技を実施できる。 3. 各検査の代表的な代償運動や別法を説明し、臨床場面を想定した肢位で検査手技を応用的に実施できる。 4. 特定の部位に求められる形態測定、関節可動域検査および徒手筋力検査を選択し、一連の検査手技を統合しながら実施できる。 5. 関節可動域検査および徒手筋力検査法の検査結果に影響しうる様々な原因を考察できる。 		
関連科目	運動学 1、理学療法評価診断学 1、臨床実習 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	100%	
教科書	①千住秀明監修 [2016 年] 「理学療法評価法 第 3 版」 神陵文庫 ②Dale Avers 他著(津山直一他訳) [2020 年] 「新・徒手筋力検査法 原著第 10 版」 協同医書		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	演習は、触診や検査手技の実施に適したシャツ、短パン等の露出が可能な服装を準備すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	足関節の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	講義・演習	谷口
2	肩関節の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
3	肘関節の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
4	手関節の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
5	体幹・頸部の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
6	関節可動域検査のまとめ①	事前:各可動域検査法の総復習	〃	谷口・戸田
7	関節可動域検査のまとめ②	事前:各可動域検査法の総復習	〃	〃
8	足関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	谷口

9	肩関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
10	肘関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
11	手関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
12	体幹・頸部の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
13	徒手筋力検査のまとめ①	事前:各筋力検査法の総復習	〃	谷口・戸田
14	徒手筋力検査のまとめ②	事前:各筋力検査法の総復習	〃	〃
15	理学療法評価の総括	事前:各検査法の基礎理論の総復習	〃	〃